



布津中学校 学校だより

至誠を貫く ～一隅を照らす人づくり～

令和5年5月23日(火) No.2 文責：校長 梅津 禎司

◎ 令和5年度第77回布津中学校体育大会を、5月14日に開催！

令和5年度第77回布津中学校体育大会を、5月14日(日)に開催しました。今年も昨年同様半日開催でしたが、大会テーマ「不屈の精神」～努力の先に飛躍あり～の下、生徒会役員や赤団・青団それぞれの団長が中心となり、大変すばらしい大会にしてくれました。

各団のテーマ、赤団「闘魂」、青団「ド紺青」として、競技の部や応援の部で優勝を目指して生徒一人一人が「不屈の精神」を見せつけてくれました。競技の部も応援の部も稀にみる僅差でした。布津中生の一人一人が、各団の優勝を勝ち取るために、熱い情熱を燃やしながらか、自分たちの思い(志)を輝かせてくれた結果であると思っています。

大会種目の中でも特に素晴らしかったのは、体育大会の最後の種目「サークル」でした。本校の長い伝統を引き継ぐものです。直前までは赤・青に分かれて熾烈な争いをしていた生徒たちが、生徒会会長や各団の団長の号令の下、一つのサークルになり、お互いの健闘を称えあいながら、徐々に気持ちを一つにしていき、最後は「生徒歌」を生徒全員で熱唱し、体育大会は終了しました。



※ 競技の結果は以下のとおりです

【競技の部】	優勝	青団	敢闘賞	赤団
【応援の部】	優勝	赤団	敢闘賞	青団

◎ 4月26日にPTA総会が開催されました！

26日(水)の13:35から授業参観が、14:40からPTA評議員会が、15:15からPTA総会と部活動後援会総会が開催されました。たくさんの保護者にご参集いただき、令和5年度のPTA活動についてご意見をお聞きしました。令和5年度のPTA役員、PTA活動方針や専門部の活動計画、予算などを決定しました。新型コロナウイルス感染症の5類への分類を踏まえ、3年間の「with コロナ」で培った経験を活かしながらか、変えるべきものは変えようという役員の思いがこもったとても有意義な総会であったと感じました。

大変お忙しい中に出席いただいた保護者の皆様や本部役員の皆様方に感謝するとともに、「PTA活動を活性化させながらか、生徒たちの教育環境の改善などの学校課題解消に向け、保護者と教職員が手を取り合って、頑張っていこう。」という思いになりました。

◎ 読書のすすめ

文化庁が2018年に行った「国語に関する世論調査」によると、1ヶ月に1冊も本を読まないという人は、全体の約半数にも上るそうです。すなわち、2人に1人は本を読む習慣がないということが言えます。5年前のデータですから今どのようになっているのかわかりませんが、改善しているとは思えません。

私自身は、どうかというと、1～2週間に1冊ほどのペースで読書をしています。若いころはほとんど読書をする習慣がなかったのですが、10年ほど前からちょっとした時間を見つけては読書をするようになり、今では読書をする事の面白さが本当によくわかります。

山本有三 『路傍の石』に次のような文章があります。

「昔、ギリシャの兵隊のなかに、糸のように細い、病身の男がいたそうだ。そんな弱々しいやつだが、戦場に出ると不思議に強くなって、じつによく働くのだ。そこで、大将が考えた。あんなに、からだ弱いのに、あれだけ勇ましく戦うのなら、からだ丈夫だったら、もっと手柄を立てるに違いない。そう思って、大将はできるだけその男を大事にしてやった。で、養生をさせたり、保養をさせたりしたかいがあって、からだめきめきよくなってきた。目方もついたし、腕も太くなってきた。こんなにいい体格になったからには、今度の戦いには、さぞかし、はなばなしい手柄を立てるだろうと、大将をはじめとして、みんな目を見張っていたのだ。ところが、その次の戦争の時には、そいつ、逃げてばかりいて、ちっとも進まないのだそうだ。」

子どもをかわいいと思わない親はいません。しかし、かわいい子どもだからこそ、厳しさに耐える力をつけてやらなくてはならないのです。社会の厳しさを乗り越えていく力をつけてやるのが私たち大人の手助けだと思います。子どもにとって危険すぎる大きな石はどけてやっても、小石までどけてやるのはどうでしょう。心も体もあまり大事に守りすぎるとかえって子どものためにならないことも多いと思うのです。『若い時の苦勞は買うてもせよ』ということわざもあります。「若い時の苦勞は自分を鍛えてくれて将来役立つ貴重な経験となるから、自分から進んで買ってでもしたほうがよい」という意味です。

さらに、『路傍の石』の黒田は言います。

「おれはさっき、苦勞をするのはいいこったといったな。おまえぐらいの時分に苦勞をするのは、本当にいいことなんだぜ。赤ん坊だって、マクリ（虫下しの薬）を飲まされるんだ。まあ、それと同じだと思うんだな。若い時に、にがい薬を飲まなかったやつは、ひだちが悪いよ。おれは『苦勞』を、おれの『先生』だと思っているんだ。人間『苦勞』にしこまれないと、すぐいい気になっちゃうんだな。」

かんなん、なんじを玉にす

黒田の言ったことばを彼はなんども舌の上にかけてみた。ここの板の間がどんなにざらざらしていても、自分で選んだ道なのだからここで辛抱するよりほかはないと…

艱難 汝を 玉にす (かんなん なんじを たまにす)

「人は多くの困難を経てりっぱな人物になる」という意味のことわざです。本校の生徒たちにも、適度な苦勞（良薬）を、学校でも家庭でも与え続けながら、いつの日にか子供たちが「玉」になることを信じて頑張り続けましょう。

◎ 令和5年度南島原市中学校総合体育大会(球技・格技)の組み合わせが決定!

令和5年度の市中総体が、6月11日(日)・12日(月)の2日間、市内の各所で開催されます。その団体戦の組み合わせ抽選会が先日開催され、裏面のような組み合わせが決定しました。

生徒たちは、中総体での優勝を目指して、毎日の練習に励んでいます。布津中生の健闘に期待したいと思います。新型コロナウイルス感染症も5類相当に分類させたため、応援についての規制が3年ぶりに解除されました。ぜひ保護者の皆様の応援をお願いします。

がまだせ！ 布津中生！！